新たな歴史文化施設の必要性

（1） 事業検討の背景

印西市は現在、千葉ニュータウン地区の開発に伴い多くの移住者があり、県内でも有数の人口増加地域として位置づけられている。また、平成 22 年度における印西市、印旛村、本埜村による 1 市 2 村の合併後、市域の拡大により歴史文化資料も増大しているが、それらを総合的に管理・活用する施設が存在していないことが、大きな課題となっている。

市では現在、そのような状況を鑑み、「史跡資料展示施設の整備検討」を行っており、10 万人都市に見合った施設の在り方について検討している。

さらに、令和 2 年 3 月に策定された「印西市公共施設適正配置アクションプラン」において、市民の利用増加、利便性の向上や運営の効率化を図るため、市内に点在する歴史文化資料の集約化を行い、より利用しやすい施設の整備が求められている。

今回、市内における歴史文化施設の在り方について、より具体的に検討するため、基本計画を定め、今後の歴史文化資料の収集・保存・活用・周知の方針およびそれらを統合した歴史文化施設像を提示する。

（2） 印西市の現状と課題

① 合併による市域の拡大と流入人口の多さがもたらす歴史・文化の多様性
② 地域の歴史・文化に対して興味をもつ市民ニーズの増加
③ 社会の転換期におけるまちづくりに対する意識の変化
④ 新印西市としての歴史・文化の共有と新たな市民アイデンティティの確立
⑤ 各ステージにおける市民の学習機会の充実および学校教育との連携強化
⑥ 歴史・文化資源を活用した地域の新たな価値・魅力の創出

（3） 印西市内の歴史文化施設における課題

【市内の展示・収蔵施設】

・印西市立印旛歴史民俗資料館（資料館）

昭和 61 年 10 月開館。旧印旛村の歴史と文化を伝え、地域住民の郷土の歴史・民俗文化への理解と知識を深めるために設置。旧印旛村で収集した民具を中心に、古文書・考古資料・地学資料・印旛沼関連資料等を収蔵・展示。

・印西市立木下交流の杜歴史資料センター（センター）

平成 28 年 4 月開館。木下地区周辺の原始から近代までの考古･歴史資料を展示。市史編纂業務を推進。古文書・歴史的公文書・貝化石資料を収蔵。

・印西市立資料整理作業所（作業所）

平成 11 年 4 月開所。主に旧印西市の考古資料を主体として、民具、図書等を収蔵。

・印西市立印旛医科器械歴史資料館（医科器械）

平成 7 年 3 月暫定開館。平成 19 年 4 月開館。

日本全国より収集した医科器械 1000 点を展示。

運営は指定管理者制度であり、管理者は一般財団法人日本医科器械資料保存協会である。展示品以外は宗像の倉庫に収蔵されており、いずれも財団の所有である。建物は旧印旛消防署を転用している。

① 施設・立地に関する課題

・資料館は開館後 36 年、医科器械の建物は建設後 45 年が経過し、老朽化による施設の不備・不足が顕著である。

・資料館は一部民有地に施設が建設されている。

・作業所は浸水区域にあるため、市の文化財の保管・継承施設として不適である。

・資料館および作業所は、公共交通機関のアクセスも非常に不便である。

② 収集・保存に関する課題

・収蔵庫や展示施設が狭いうえ、温湿度調整機能などの設備も不足している。

・資料が旧市村ごとに分散して保管されており、総合的な歴史把握が不可能となっている。

③ 調査・研究に関する課題

・市民が自主的に学習したり、成果を発信したりする機会や場所が確保できない。

・学芸員による調査・研究に必要な施設や体制が構築されていない。

④ 展示・公開に関する課題

・印西市全体の自然・歴史を学ぶことができる展示になっていない。

・特別展や企画展を行うための施設がなく、小規模な企画展しか実施できない。

⑤ 教育・普及に関する課題

・郷土学習を必要とする児童・生徒の受け入れに適した設備がない。(学習空間・機能・大型バスの駐車スペース、食事スペース等)

・生涯学習の機会についても同様に、受け入れに適した設備がない。

上記の状況から、本市には市民及び来訪者が印西市の歴史・文化・自然を体系的に学ぶことのできる施設がない。そのため、新たな歴史文化施設の整備を行っていく必要があり、その設置に向けた基本計画の策定が重要となる。